

分野名：自治公民館活動

資源回収をきっかけにした地域づくり

～3R+C(リユース・リデュース・リサイクル+コミュニティ)

の取り組み～

大刀洗町 ふれあいセンター センター長 廣木 俊二

1. 事業名

本郷校区 ふれあいセンターにおける MEGURU STATION®※の設置と社会実証

※MEGURU STATION®とは

生ごみを含む全 15 品目の資源回収事業をきっかけにした、地域コミュニティの醸成を目指す取組。

2. 事業の目的

資源回収をきっかけにした、多世代交流や地域の顔合わせの場所づくり

全 15 品目(生ごみ含む)の資源回収を行い、ゴミの減量化やリサイクル率の推進

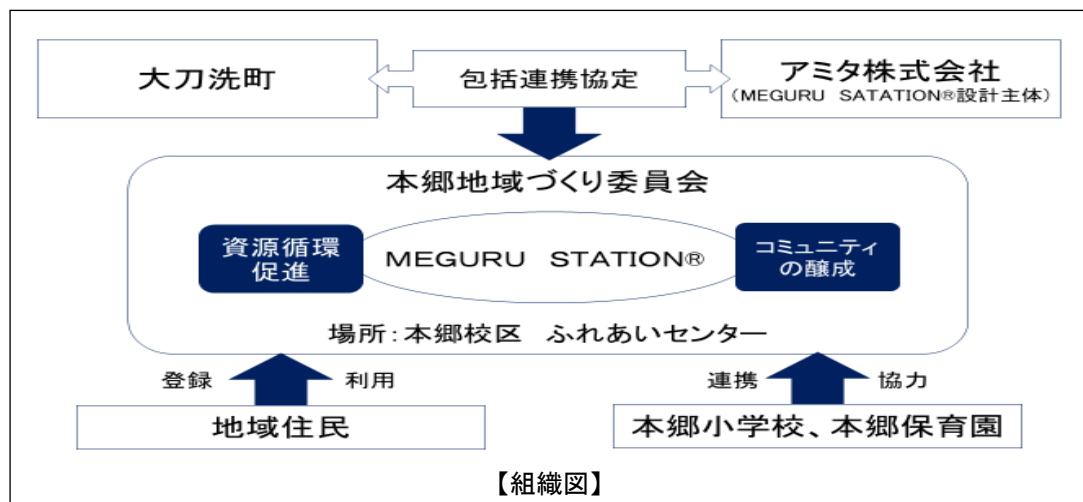
3. 事業の実施主体

大刀洗町役場

4. 連携・協力機関・団体等

本郷地域づくり委員会、アマタ株式会社(MEGURU STATION®設計主体)

本郷小学校、本郷保育園



5. 実施に至る経緯

大刀洗町は子育て世代の転入により全体の人口が増加傾向にあり、30 年前と比べると約 1900 人増加している。しかし、人口増加に比例して、年々燃えるゴミの量が増え続けているという課題がある。そこで、ゴミの減量化やリサイクル率の推進を目的に、新たな資源回収拠点を設ける運びとなった。その際、資源回収のみを行うのではなく、地域住民のつながりづくりも含めた「3R+C(リユース・リデュース・リサイクル+コミュニティ)」という新たなテーマを設定することになった。

具体的には、地域モニターや運営ボランティアと協力し、地域住民にごみの分別や生ごみのリサイクルをおこなってもらい、地域コミュニティ活動の活性化及びごみの減量化に取り組むことで、地域共生社会の実現を目指している。そして、大刀洗町における最初の実証拠点として、2022年1月より本郷校区のふれあいセンターでMEGURU STATION®の取組が始まった。

6. 事業の内容

(1) 営業時間

月曜日～土曜日(水曜・日曜は休み) オープン時間：8：30～17：30

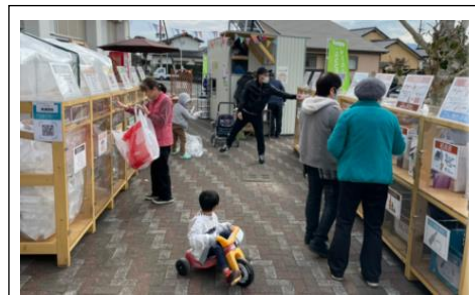
(2) 会 場

本郷校区ふれあいセンター

(3) 活動内容

① 資源回収

MEGURU STATION®の運営には、地域づくり委員会だけでなく、地域のボランティア2名にもサポートしてもらっている。資源ごみ(缶、びん、ペットボトル、トレイ、雑がみ、紙パック、パウチ・ボトル、卵パック、容器包装プラスチック等)については、透明な回収BOXで14品目に分けて回収している(写真1)。また、生ごみ(骨・貝殻・卵の殻等以外の消化できる生ごみ)については、小型の生ごみ処理装置(メタン菌による分解発酵処理)を通じて、生ごみをメタンガスと液肥に分解している。処理装置によってできたメタンガスは火として利用することが可能で、液肥は利用者の中で必要な方に無料で提供している。



【写真1: 資源回収の様子】

② コミュニティの醸成

資源回収は、地域住民にふれあいセンターまで資源を持ち込んでもらっている。地域住民が集うその機を逃さないように、住民同士の交流を生み出すための場づくりに取り組んでいる。その結果、地域住民主体による活動が新たに生み出されている。

〈交流スペースの設置〉

回収BOXの近くに椅子やテーブルを設置して、休憩したり、住民同士が交流したりできるスペースをつくっている(写真2)。冬場は薪ストーブも設置して、自然と火の周りに人が集まるように工夫している。このような取組が住民同士の会話を生み出し、新たな人間関係の形成につながっている。



【写真2: 交流スペースの様子】

〈めぐる農園〉

生ごみ処理装置からできた液肥を使って野菜を栽培する「めぐる農園」が作られた(次ページ写真3)。めぐる農園では、多くの地域住民が関わりながら、野菜の栽培から収穫までをおこなっている。また、収穫した野菜を使ってピザづくりがおこなわれた。できあがったピザは大人気となり、地域住民のたくさんの笑顔が溢れていた。

〈野菜のお譲り会〉

地域住民の発案から始まった活動も展開されている。地域住民が各自の家庭菜園等で収穫した野菜を自由に譲り合う「野菜のお譲り会」が定期的に行われている（写真4）。

③ 小学校・保育園と連携した取組

前述の活動には、大人だけでなく地域の子どもも関わっており、本郷小学校や本郷保育園と連携した取組を進めている。ふれあいセンターやMEGURU STATION®の見学をしたり、夏休みにMEGURU STATION®で回収袋交換やメタンガスの利用、「めぐる農園」での液肥散布等の体験をしたりしている。そのため、子どもたちにとって環境教育や社会参加の場になっている。



【写真3: めぐる農園の様子】



【写真4: 野菜のお譲り会の様子】

7. 事業の成果と課題（○…成果、●…課題）

- ステーションを利用している各家庭で、燃えるゴミの容量が減少している。2022年2月に実施した利用者を対象にしたアンケートでは、「分別することで『燃えるゴミ』の容量はどの程度減りましたか?」という質問に対して、回答者の84%が「2割以上減った」と回答している。
- 地域住民の環境やリサイクルに対する意識の高まりが感じられる。アンケートをみると「ゴミや環境への関心は変わりましたか?」の質問に対して、回答者の74%が「高まった」と回答している。その他、子育て世代の来場者からは「子どもがゲーム感覚でBOXに資源を投入しており、家でも分別する習慣ができてきた」という声も聞かれる。
- 地域住民同士の新たな交流が生まれてきている。資源(ゴミ)出しは誰もが関係する日常の行為であるため、これまで校区センターを利用していなかった住民の利用も見られる。まちづくりの担い手不足が課題となる中、いろいろな世代が自然と地域コミュニティ活動に興味をもつような取組を継続的におこなっていく必要がある。
- 約1500世帯が居住する本郷校区で、利用している世帯はまだ約360世帯程度である。そのため、取組内容について地域住民へ周知を図ることで、更なる利用者の増加、特に子育て世代の利用者の増加が望まれる。
- 利用者の多くは自家用車を使って資源を持ち込んでいる。多くの利用者が徒歩圏内でステーションを利用できるように、集落単位でのステーション設置を検討する必要がある。

問い合わせ先

〒830-1211 福岡県三井郡大刀洗町本郷2848-1
大刀洗町ふれあいセンター センター長 廣木 俊二
TEL : 0942-23-2211 FAX : 0942-23-2212